



未来へつなぐ架け橋研修会

2月12日(木)に開催した未来へつなぐ架け橋研修会は、幼稚園・こども園・保育所(園)・小学校の教員、行政担当者など約90名の参加を得ることができました。

この研修会は、南丹地区幼稚園・小学校・中学校・高等学校等連絡協議会の幼小連絡部会と南丹教育局との共催で毎年実施しています。参加者の皆様からの感想を一部ご紹介いたします。

実践発表

パネルディスカッション

「ふるさとで育つ子ども達～子どもの遊びと学びをつなぐ架け橋カリキュラム～」

育親学園	尾田 耕一	教諭
本梅こども園	中澤 智美	副園長
森の自然こども園東本梅	藤岡 郁子	主幹
かめおか乳幼児教育センター	中井 佐栄子	所長

★自園でも架け橋期の取組で、どんなことができるか試行錯誤しているところですが、まずは、お互いを知ること、先生同士が仲良くなり、対話を積み重ね、大人が楽しんで取り組んでいくことが大切なのだと感じました。



★架け橋期カリキュラムを実際に作成して実践されている例を聞き、子ども達が小学校に円滑に安心して入学できるよう、事前に種をたくさん蒔いておくことが大切だと感じました。小学校では、園で学んできたことを無駄にせず、生き生きした子どもを育てていきたいと思います。

グループ協議

テーマ①:「自校・園(所)で行った子どもの育ちをつなぐ取組を交流しよう」

テーマ②:「こんな1年生のスタートだったらいいな～最初の3日間を共に考えよう～」

近隣の園(所)・小学校・義務教育学校がグループとなり、幼児教育で培った学びの芽を学校教育で発揮できるよう具体的な話をすることができました。これからの各地域での取組が楽しみです。



★園での1日を知ることが大事だと改めて感じました。どのような学びをしているのか、先生方はどのような願いでつなげていただいているのか、年間を通して知ることを今後も大切にしていきたいです。

★「1年のスタートの最初の3日間をどう過ごさせるか」ということをいろいろ考えさせられます。キーワードは「安心感」。そこから何が大切であるかを逆算した取組を考えていきたいです。

★0～5歳の経験があり、園での学びがあったからこそ小学校へつながっていくと分かりました。どのような連携をしているか、園全体で共有しながら、みんなでつながっていくようにしたいです。

指導助言

京都府架け橋期コーディネーター 大橋 美智子 先生

★卒園が最後ではなく、その先があると思って保育をする。小学校につながることを意識する責任がある、という大橋先生の言葉が心に残りました。安心感の中で楽しみに登校し、学べるように連携をしっかりしたいと思いました。

